発掘現場見学会

財団法人　かながわ考古学財団

鎌倉市下馬周辺遺跡（げばしゅうへん）

北地区南側全景（竪穴遺構群）

下馬周辺遺跡発掘調査の概要

下馬周辺遺跡の発掘調査は、鎌倉警察署建設工事に伴う埋蔵文化財の記録保存として、2010 年 6 月から発掘調査を実施しています。調査地点は、由比ヶ浜二丁目 11 番に位置します。鎌倉駅から約 700m南で、現在の海岸線からは約 800m北になります。周辺の地形は由比ヶ浜の砂丘帯の北東側にあたり、遺跡は砂地の上に築かれています。

遺跡の約 50m南には現在の一ノ鳥居があり、また、約 200m北には下馬の交差点と「下馬」由来の碑が建てられています。「下馬」は鎌倉時代に鶴岡八幡宮に参拝する人々が馬を降りた場所として、伝えられています。調査区の地表面の標高は 7.9～8.6m程で、南側に向かうに連れて緩やかに高くなります。調査面積は約 1,900 ㎡です。調査は北地区と南地区に分割して実施し、2010 年 11 月に北地区の調査を終え、現在は南地区の調査を行っています。

近世の下馬周辺遺跡

今の地表面から約 1.0～1.45m下で、近世の遺構が発見されました。多くは、以前の建物の基礎によって攪乱や削平を受けていましたが、現在の若宮大路と並行する溝状遺構や、江戸時代の終わり以降に造られたと推定される石組の井戸址などが発見されました。溝状遺構の中には、宝永年間の富士山大噴火（1707 年）の火山灰が部分的に積もっています。

土坑から出土したかわらけ

中世～戦国時代の下馬周辺遺跡１　土坑群

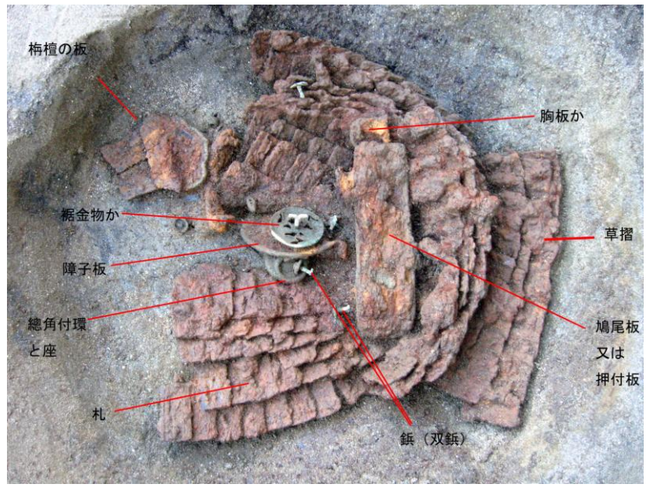
今の地表面から約 1.45～1.75m下では 14 世紀から 15 世紀代の遺構群が発見されています。土坑と呼ばれる円形や長方形の穴が、現在までに約 280 基が発見されています。土坑からは、「かわらけ」と呼ばれる素焼きの土器や、馬を始めとする獣骨、大量の貝殺、切石片など様々な遺物が出土しています。また、僅かですが人骨が出土している土坑もあります。土坑の形や大きさ、出土した遺物も様々な種類があることから、人や動物を埋葬したもの、祭祀を行ったもの、ゴミを捨てるためのものなど、用途も様々であったと考えられます。

中世～戦国時代の下馬周辺遺跡２　竪穴遺構群

今の地表面から 1.75～2.4m程下では、主に竪穴遺構が発見されています。竪穴遺構は竪穴建物遺構、方形竪穴遺構などとも呼ばれる、方形・長方形の竪穴を掘り込んで、上屋に木の屋根を架ける建物跡です。現在までに 40 棟が発見されています。古い竪穴遺構を壊して新しい竪穴遺構を造っている例が幾つもあり、同じ場所で何度も建て直しをしています。一辺が 10mを越えるものから、４m未満のものなど、様々な大きさの竪穴が発見されました。内部の構造も、壁際に切石を並べるものや、隅に切石を立てて柱状にしているもの、礎石を並べているもの、溝を巡らすものなど多様です。建物の床面や下面に掘られた穴からは、陶磁器やかわらけなどの土器類や刀や鎧などの金属製品、埋蔵銭などが発見されています（裏面参照）。

竪穴遺構から発見された鎧について

第 28 号竪穴遺構の床面に掘られた穴（土坑）から鎧が出土しました。日本に現存する鎧は寺社などで保管され伝えられたものが多く、鎧 1 領分の部位がまとまって発掘調査で出土した例は、京都市の法住寺殿に続いて 2 例目になります。出土した鎧についてはこれから詳しく検討する予定ですが、現在確認されている部位から腹巻鎧（はらまきよろい）の可能性が考えられます。



出土した鎧には右図の大鎧にある脇楯の部分が見あたりません。また、梅檀の板は大鎧以外には腹巻鎧にのみ付くと考えられています。

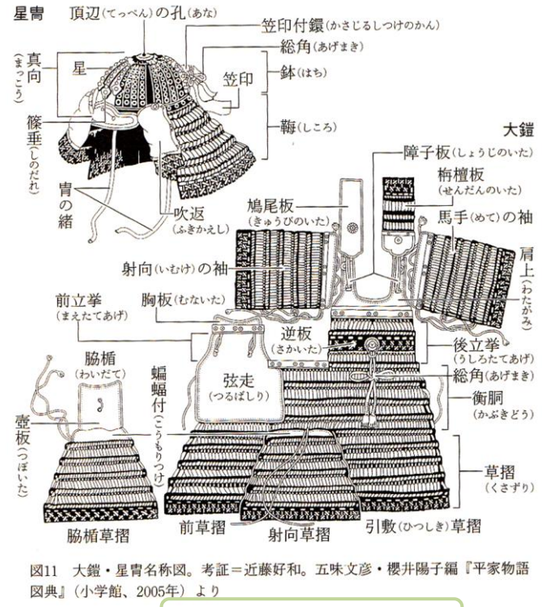
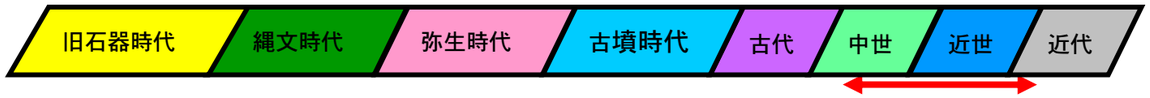


図11　大鎧・星冑名称図。考証＝近藤好和。五味文彦・櫻井陽子編『平家物語図典』（小学館、2005年）より

鎧の名称（大鎧の例）

おおよその年代

35000 年前　15000 年前　2300 年前　1700 年前　1300 年前　800 年前　400 年前　150 年前



※矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示しています。遺構や遺物の年代や性格は現時点の判断であり、出土品整理などにおいて、評価を見直す場合があります。

壁際に切石を巡らせた竪穴遺構（第 13 号竪穴遺構）

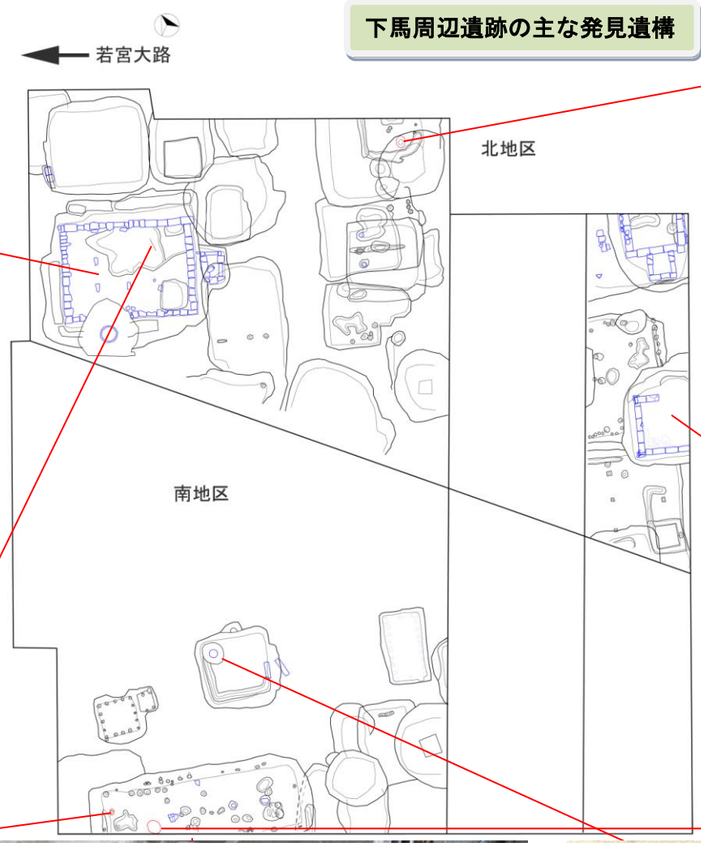
１辺の長さが 8.5～10.2m程の大形の竪穴遺構で、壁際に切石が並べられていました。刀と思われる鉄製品やかわらけなどが出土しています（手前の円筒の石組みは、近世以降に造られた井戸址）。

第 13 号竪穴遺構から出土した刀

第 28 号竪穴遺構から出土した埋蔵銭

南壁際の床面に掘り込まれた小穴から出土しています。紐で古銭を束ねた「差し」の状態で出土しています。通常、一差しで 100 枚弱を綴っています。全部で 21 差し発見されました。

下馬周辺遺跡の主な発見遺構



第７号竪穴遺構から出土した壺

竪穴遺構の床面に掘り込まれた円形の穴（土坑）から出土しています。壺の大きさは口径約 24 ㎝、高さ約 42 ㎝程です。

壺の発見された周辺の床面と壺の底面からは数枚の古銭が発見されています。銭を入れて出し入れしていたことが想定されます。

隅に立柱のある竪穴遺構
（第 23 号竪穴遺構）

南壁の隅（写真手前側）に板石を「L」字状に立てています。南側の壁際からは、板状の炭化物が出土しました。

切石と壁面の間に木の板を立てて、切石で押さえていたものと考えられます。

細長い竪穴遺構（第 28 号竪穴遺構）

鎧や埋蔵銭が出土した竪穴遺構は東西の長さが約 14.5mです。南側の壁の大半が調査区の外にあるため全体の形状は断定出来ませんが、東側に僅かに残っている壁の南北の長さは約 5.0mです。

東西軸のほぼ中心に一定の間隔で小穴が掘られ、中に河原石が置いたものや、切石に円形の穴を掘りこんだものがあることから、柱を立てた礎石と考えられます。

第 35 号竪穴遺構から
出土した大甕

第 35 号竪穴遺構は一辺の長さが約 4.5～5.0mの小型の竪穴遺構です。甕は、口径約 60 ㎝、胴部径 95 ㎝の大甕です。甕の最大径より僅かに大きい円形の穴（土坑）を竪穴遺構の北西隅に掘り込んで、甕を埋めています。

第 28 号竪穴遺構から出土した鎧

鎧は第 28 号竪穴遺構の東西軸の中心より僅かに南側に掘り込まれた円形の穴（土坑）から発見されました。掘込みは直径約 80 ㎝の円形で、深さ 20～30 ㎝程です。

鎌倉市下馬周辺遺跡見学会資料
2011 年３月５日
財団法人 かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
TEL 045-252-8689 http://www.kaf.or.jp/